

平成 28 年度 学校自己評価書

小美玉市立玉里北小学校 校長 大山 徳

1 今年度の取り組みの概要

- 指導方法を改善し、毎日の授業の中で互いに聴き合える学習集団をつくる。
 (達成目標)
 ○一斉型授業・教師主導型授業・一問一答式授業からの脱却を目指した指導法を改善する。
 ○聴き合いのできる児童同士の互惠関係をつくる。
 ○実効性のある授業研究会や研究協議会を実践する。

<達成度 A:十分に達成 B:おおむね達成 C:達成せず D:課題が残る>

◎ 組織目標 1 についての具体的な取り組み

組織目標 1		指導法を改善し、互いに学び合える学習集団をつくる。	
達成目標	具体的な方策	実施結果	達成度
一斉型授業・教師主導型授業・一問一答式授業からの脱却を目指し、指導法を改善する。	<ul style="list-style-type: none"> ペア学習または4人グループを基本とした学習形態の工夫をすべての授業で実践する。 質の高い課題を意図的・計画的に与えることで、児童が夢中になって学ぶ授業づくりをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学び合える学習集団づくりのための学習形態の工夫が全ての学級で行われている。 質の高い課題を提示することにより、友達の「わからなさ」を共有しながら課題解決をしていく姿が見られる。 	A
聴き合いのできる児童同士の互惠関係をつくる。	<ul style="list-style-type: none"> 児童同士の聴き合いを活かした学習活動をすべての授業で実践する。 教師は児童の主体的な学習活動を支援する立場に徹する。 児童の「わからなさに寄り添う教師」を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ほとんどの児童が「ここを教えて」と友達に聴いたり、それを受けて説明したりすることができる。 教師がしゃべり過ぎることがなくなり、児童同士が活発に意見交換したり考えたりする学習が行われている。 	B
「学び合える学習集団づくり」を目指す授業について、実効性のある授業研究会や研究協議会を実践する。	<ul style="list-style-type: none"> 授業研究会を計画的に実施する。(1人1回の公開授業) 外部講師を招いた要請訪問指導を3回以上実施する。 研究協議会のもち方を工夫し、協議の活発化と質の向上を図る。 研究推進校の授業を参観する機会を積極的に設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間6回の授業研究会(4回の要請訪問を含む)を実施した。 授業の動画や児童の観察などの記録をもとに、授業を客観的に分析することで、授業改善につながっている。 市内各小中学校にも授業公開した。のべ40名の他校の教員が参加し、共に授業の研究協議を行った。 	A

2 今年度の成果と次年度に向けた課題

(1) 成 果

- 「学び合い」を取り入れた授業実践を3年継続実践したことにより、従来の「一斉型授業」「教師主導型授業」「一問一答式授業」から、児童同士が「主体的に学ぶ授業」へ改善が図られている。日常の授業の中では、学習形態の工夫や児童の考えを生かす指導が実践されている。児童の学習意欲が高まり、協働的に課題解決しようとする姿が見られる。
- 質の高い課題を計画的・意図的に提示することで、児童たちが夢中で考える学習場面や友達と協働して解決方法を見つけ出そうとする児童の姿が常に見られるようになってきた。このことにより、思考力や判断力が確実に向上してきている。
- 互いに聴き合える学習集団が、各学級で形成されてきている。友達と積極的にコミュニケーションをとることにより、児童相互の互惠関係づくりにより効果が表れてきている。
- 授業研究会を重ねることで、教師一人一人の指導力の向上と授業改善が図られた。このことにより、学校全体で質の高い教育を提供できるようになってきている。
- 2学期末の「児童アンケート」の結果では、「授業がわかる」と答えている児童が100%、「進んで学習に取り組んでいる」と答えている児童が92%であった。昨年度よりもそれぞれ数値がアップした。

(2) 課 題

- 県学力診断のためのテストの結果から、各学年とも平均正答率（県との比較）が大きく向上していた。しかし、「学力の個人差が大きい」という本校の課題は、解消されていないことが分かった。学力が低い児童に対しての適切な評価と「わからなさ」に寄り添った指導が十分でないと考えられる。協働的な学習活動をさらに進めていくことにより、全体的な底上げをさらに図っていかねばならない。
- 言語による表現力は伸びてきているが、自分の考えを「式」「模式図」「文章」などで表現することを苦手としている児童が多い。今後も「表現力」を高めていくための指導の改善が必要である。
- 授業改善についての実践が深まっている。教職員全員で共通理解を図り、さらに研修・実践に取り組んでいきたい。

3 保護者や地域への皆様へ

- 3年間の「学び合い」による授業改善の成果が表れ、1月の県学力診断テストの結果で昨年度よりも学力の向上が見られました。また、2学期末の学校評価アンケートでは96%の保護者が「学習形態や指導法を工夫し楽しく分かりやすい授業が行われている」と回答していました。本校の学力向上への取組が家庭や地域に十分理解されていることがわかりました。
- 昨年度に引き続き、市作成の家庭学習の手引きを配布するとともに、家庭学習カードを活用して家庭学習の習慣化や継続化を図ってきました。2学期末のアンケートでは91%の児童が「宿題や家庭学習に取り組んでいる」と回答し、昨年度よりも5ポイント向上しました。しかし、保護者アンケートでは、75%であり、家庭学習に対する意識のずれがありました。家庭と学校が連携・協力して取り組むとともに、児童に具体的な働きかけを行い、学習意欲の向上をさらに図っていく必要があります。
- 学校の教育活動に対する関心を高められるよう、学校便りや学級通信の内容の見直すとともに、ホームページの更新などにより積極的に情報を発信しています。今後も学校と家庭・地域が連携して児童の教育にあたるような相互の信頼関係を構築してまいります。
- 児童のあいさつや登下校時の歩き方について、家庭、地域、ボランティアと連携した「あいさつ運動」「交通安全指導」を実施した結果、徐々に改善されてきています。今年度も家庭・地域と連携・協働した取組を継続してまいります。
- 学校評価のなかで指摘のあった課題や問題点については、改善方策を十分に話し合い、全校で改善に取り組んでいきます。また、学校だよりやホームページを活用して、家庭や地域への発信を継続して行っていきます。

